

## 平成27年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 「科学技術賞（開発部門）」受賞

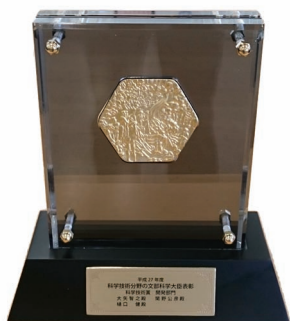
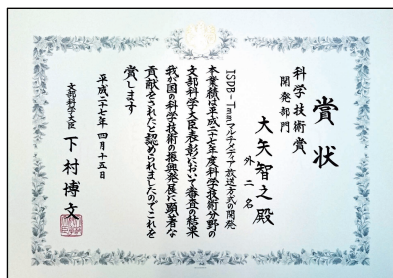
2015年4月15日に行われた平成27年度科学技術分野の文部科学大臣表彰において、コンテンツビジネス推進部の大矢 智之氏<sup>†1</sup>、サービスイノベーション部の関野 公彦氏、プロダクト部の樋口 健氏<sup>†2</sup>の3名は、「ISDB-Tmm\*1マルチメディア放送方式の開発」への功績により「科学技術賞（開発部門）」を受賞しました。文部科学大臣表彰とは、「科学技術に関する研究開発、理解増進等において顕著な成果を収めた者について、その功績を讃えることにより、科学技術に携わる者の意欲の向上を図り、もって我が国の科学技術水準の向上に寄与することを目的とする」もので、この中で科学技術賞（開発部門）とは、「我が国の社会経済、国民生活の発展向上等に寄与し、実際に活用されている（今後利活用が期待されるものを含む）画期的な研究開発若しくは発明を行った者を対象」とするもので、文部科学大臣から授与されます。

ドコモからは、平成25年度に「S帯を用いる国内衛星移動通信システムの高度化に関する開発」、平成26年度には「標準化活動への貢献を含むLTEシステムの開発」により本賞を受賞しており、3年連続での受賞となります。

地上波アナログTV放送が停波され、2012年4月よりその周波数跡地V-HIGH帯（207.5～222MHz）を用いた新しい携帯端末向けマルチメディア放送が開始されることとなり、技術的課題を解決する必要がありました。本開発では、伝送効率が高く携帯端末向けに低消費電力で動作する蓄積型放送技術、通信波と放送波の両方を利用した、セキュリティの高いライセンス管理技術、共通プラットフォームを用いたスマートフォン端末を実現しました。

これにより、放送設備構築や受信機開発が迅速に進み、地上波アナログTV放送が完全停波された直後から新しい商用サービスが開始され、すでに全都道府県で開局されています。対応するスマホ／タブレット受信機は57機種で約1500万台以上が出荷され（2015年3月末現在）、2015年4月には、5つの新しい放送事業者が開局するなど、サービスが広く普及しました。

本成果によって、携帯端末向けに、高品質・高画質のリアルタイム型放送だけでなく、従来の放送にはない蓄積型放送や通信と放送の連携を可能とし、新聞・雑誌、電子書籍、ゲームなどのさまざまな形式のコンテンツを放送により提供する新たなサービスを実現しました。このように、貴重な周波数資源の有効活用に寄与していることが評価を受け、今回の受賞となりました。



†1 現在、株式会社mmbi出向中  
†2 現在、北陸支社

\*1 ISDB-Tmm：日本の携帯端末向けマルチメディア放送規格。携帯電話などによる移動受信を目的として地上デジタル放送規格であるISDB-Tをベースとして規格が策定された。

